



 福岡銀行

不動産業の要は「人」。

考えて実践できる集団となり

福岡の発展にさらに貢献していく。

株式会社 福住 ふくじゅう

代表取締役社長

かわの たかお
河野 孝雄 氏

取引店／福岡銀行 天神町支店

■会社概要

設立:1975年／所在地:福岡市中央区／資本金:
1,000万円／従業員:83名(グループ全体:104名)
2025年4月現在／事業内容:【総合不動産業】
不動産売買仲介、企業借上げ社宅の賃貸仲介、
賃貸管理、テナント・オフィス賃貸仲介、コイン
パーキング事業、自社開発事業、相続対策、生命
保険事業、土地の有効活用、リノベーション事業、
不動産鑑定評価 他

会社ホームページは
こちらからどうぞ！





本社EAST OFFICE受付前
(左から河野社長、五島頭取)

創業の地は「天神」 この街とともに成長

福岡市中央区天神に本社を置き、主に事業用・居住用不動産の売買仲介、企業借上げ住宅の賃貸仲介（以下「法人賃貸仲介」）、賃貸管理、テナント・オフィス仲介、コインパーキング事業、駐車場管理などを手がけています。創業は1975年、福岡市中央区の天神が始まりの場所です。

創業以来、私たちが福岡市中心部、特に「天神」にこだわる理由は、この会社がこの地とともに歩んできた歴史があるからです。当社は事業用不動産の売買仲介からスタートしています。事業用不動産というのは、マンション、ビル、物流倉庫、学校、工場、飲食や美容室など、事業を行うための不動産のことを言います。筑豊で生まれ育った創業者である父は高校卒業後、信用金庫に就職しますが、信用金庫が経営不振となり9年で退職。信用金庫時代に取引のあった異業種の会社の社長さんに不動産業を立ち上げるからと誘われて福岡に出てきました。その後事業用不動産仲介の仕事を手掛け、1975年、35歳の時に福住を設立しました。

創業の地は、現在「天神121ビル」が建つ場所、福岡大和ビルというビルに入居してのスタートでした。その後、同じく中央区の東警固ビル、西鉄赤坂ビル、親和ビルへと社員数が増える

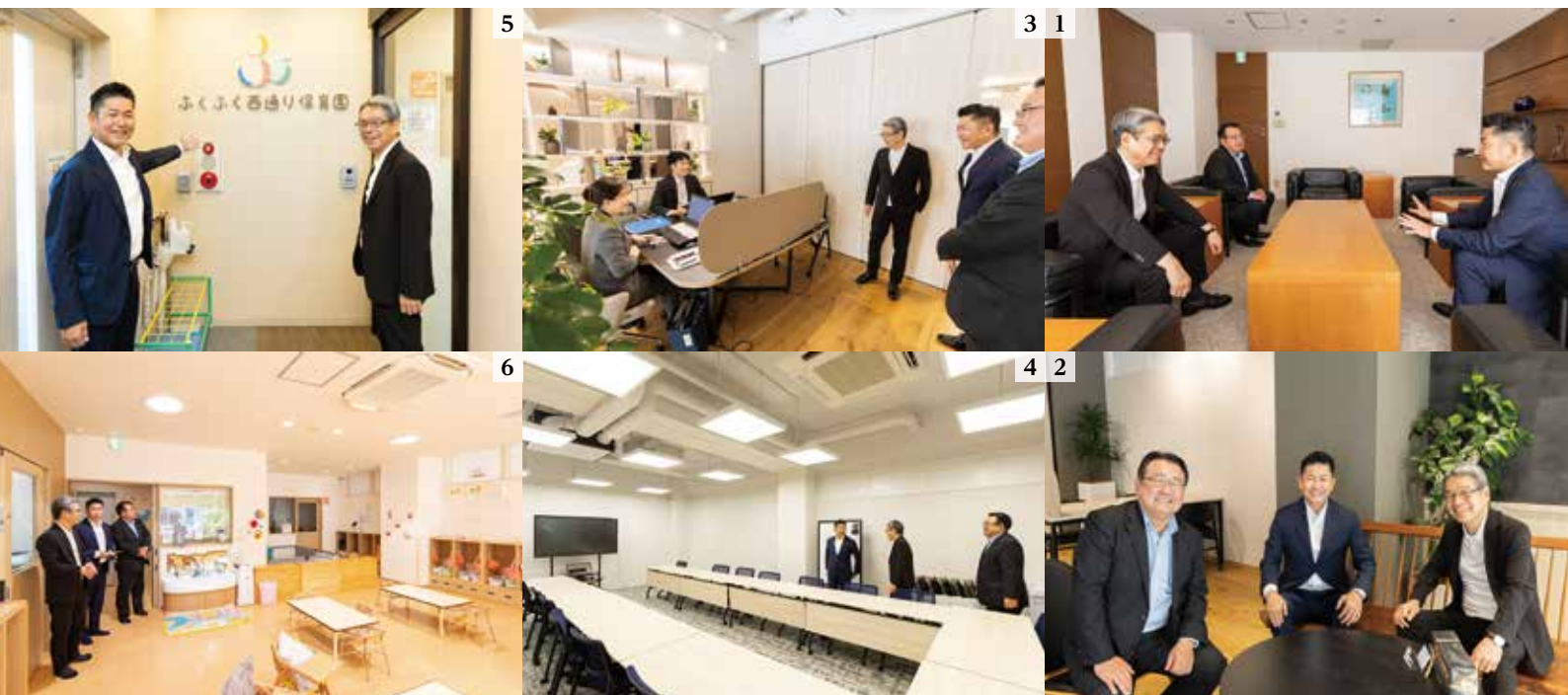
とともに移転をして、薬院に本社ビルを新築。その後、1992年に創業の地から近い場所に建つ天神ツインビルに本社を構えました。その天神ツインビルから、同じ天神地区に自社ビルを建設。それが現在の本社である「プリオ天神ビル」になります。

この天神ツインビル時代には、一つの転機を迎えます。1994年から、コインパーキング事業を開始しています。その頃は、バブル崩壊後で土地の売買が鈍化し、不動産業界全体が低迷していたと聞いています。そのような中で土地を有効活用するコインパーキング事業をスタート、現在では当社の主力事業の一つとなっています。

福岡銀行天神町支店も同じ時期に天神ツインビルに入居され、当社とは、それ以来のお付き合いになります。その後、本社ビル建設の際にもお世話になるなど、この出会いも一つの転機になっています。

収益の屋台骨となった コインパーキング事業

私は大学を卒業後、東京の不動産会社勤務を経て、1999年に福住に転じました。27歳の時で、ちょうどプリオ天神ビルに本社が移転した頃になります。入社後はコインパーキング事業を担当し、空き地や空き家など、毎日のように





河野社長

地域に密着した賃貸管理業務 自社開発ビルも次々と

創業から数年後に法人賃貸仲介をスタート

駐車場に向いていそうな物件を探し回っていました。
遊休地や空き家などを見つけては、法務局に行つて謄本を確認し提案営業。駐車場ができてからも、社員で力を合わせて草取りをしたり、駐車場のラインが消えそうなところは引き直したりするなど、常に快適な環境でお使いいただけるよう誠心誠意管理をしてきました。
この私たちの取り組みを見ていたある駐車場のオーナーさまから、「お宅の駐車場の管理を任せたい」といったお話をいただくことがありました。手間ひまをかけ、丁寧に仕事をすることは、次の可能性を生み出すことを実感しました。

しています。事業用売買仲介でのお取引先企業さまのご転勤者のお部屋探しをしていたのが法人賃貸仲介を始めたきっかけです。以来ずっと当社の賃貸事業は法人賃貸仲介とご紹介によるものが中心です。

賃貸管理業務に関しては西方面なら姪浜くらいまで、南方面なら大橋くらいまでと、この法人賃貸仲介事業を行う中で、ご転勤者からのニーズの高いエリアの物件を中心に管理を推進してきました。さらに、賃貸管理業はいろいろなことが発生しますので、自分たちの目がいかにか届くかがカギになります。責任ある仕事をすべく、短時間で行ける距離のエリアに定めて賃貸物件の管理をしております。

一方で、売買仲介に関しては福岡都市圏の案件がほとんどですが、ご相談があれば、九州そして全国の物件の仲介もしております。地元であることの強み、確かな人脈を得ることも、この業界では非常に重要だと思っております。

小規模ですが今まで自社開発事業も行ってきました。2001年の「プリオ大名」に始まり、「プリオ大名Ⅱ」「花形館」「プリオ大名Ⅲ」と大名エリアで4棟の商業ビルを新築させていただきました。2022年に専門学校をオフィスビルとしてリノベーションした「プリオ福岡ビル」と本社がある「プリオ天神ビル」を含めると天神大名エリアで開発したビルは6棟になります。



11 9



7



10



8

1.対談風景／2.受付フロアで記念撮影／3.従業員と談笑／4.広々とした会議室／5.EAST OFFICE 2階に入居する企業主導型保育園「ふくふく西通り保育園」／6.ふくふく西通り保育園を見学／7.8.WEST OFFICEで従業員と交流／9.各フロア of の状況を確認できるため互いにサポートしやすい環境となっている／10.2024年1月新天町に開設したポップアップ型ショールーム「交流文化創造拠点HiRaKu」／11.企業メッセージ



最前列左2人目から大園副社長、河野貞雄会長、河野孝雄社長、五島頭取、山内支店長(福岡銀行)、高浜副社長

また、2016年には、今後のビル再生やリノベーション事業の将来性を見据え、リフォーム会社の「株式会社アシスト」の株式を取得、グループ入りしてもらい、リフォーム事業も順調に伸びてきています。

建築費の高騰が顕著になる昨今、リフォーム事業やビル再生事業を、当社の一つの柱として成長させていきたいと考えています。

お客さまの要望に応える コンシェルジュでありたい

不動産仲介業や資産管理の分野で重要なのは「人」の力です。私たちに求められるのは、お客さまの「こういうものがほしい」「この土地をどうしたら良いか」「将来の相続を見据えて提案してほしい」などというニーズを調査・分析し、最良の案をご提案すること。いわばコンシェルジュのような仕事をすることであり、「答えがない仕事」に道筋をつけていく力が必要なのだと思います。だからこそ、数多くの経験を通して「人」が成長することが何よりも重要だと考えています。

その力を養うため、当社では社員が主体となった研修や委員会などを設けています。例えば、入社4年目までの社員に対しては「フレッシュヤーズキャンプ」と題した研修を実施。

リーダーとなるのは4年目の社員で、若い世代の成長の場として活用しています。

また、ワーク・ライフ・バランス委員会や広報委員会など7つの委員会活動も活発です。この委員会には役職者もメンバーとして参加していますが、リーダーシップを取るの若手社員です。これらの活動から生まれたアイデアも次々と実現しています。

一方、社員が健康的に安心して働ける環境づくりも進めています。例えば、会社負担による全社員の生命保険加入、女性社員への婦人科検診費用の補助などを導入。また、待機児童問題が社会で取り上げられたことをきっかけに、本社ビル2階に2018年4月に企業主導型保育園「ふくふく西通り保育園」を開園しました。この保育園には、約20名ほどの園児が通っていますが、当社だけでなく提携企業の方にもご利用いただいております。地域全体に貢献できているのではないかと感じています。

人材を育て、層を厚くする

2024年1月には、天神・新天町にポップアップ型ショールーム「交流文化創造拠点 HiRaKu」をオープンさせ、福岡のみならず九州全体の活性化につながるイベントを随時開催しています。この場所が拠点となって、地域、

人、そして文化を結んで、新たな方向に開く。随分昔から「かかとはローカルに、視野はグローバルに」と発信してきた当社としては、これからも地域共創の精神も忘れずに本業に邁進して参りたいと思います。

おかげさまで、2025年で創業50周年を迎えることができました。

今年は、地元の福岡ソフトバンクホークスが、主力選手のけがなどによってシーズン当初から苦戦を強いられながらも、若手が次々と台頭し、あらためて層の厚さを感じさせてくれました。人材の層が厚い、成長できる組織というのは本当に強い。ホークスのように強くなるには、ベテランが若手にしっかりと教え、若手は吸収しようと学び続ける意識の高さが必要であると実感しました。そして、制度のブラッシュアップやオフィス環境の整備も充実させてきました。今後も更に働きやすい環境を作っていくたいと思っています。これから先も一つ一つを積み重ね、社員がやりがいを感じてもらえる組織であれば、必ず成長できると信じています。「福住にお願ひすれば間違いない」と思っていただけのように、これからも取り組んでまいります。

5・6月合併号でHiRaKuをテーマに河野社長にお話を伺っていますぜひご覧ください



インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 五島 久

「お客さまの要望に応えるコンシェルジュでありたい。だから人を育てることが何よりも重要」とおっしゃる河野孝雄社長。なるほどということか、と思いました。以前、福住さんの若手育成プログラムで講話させていただいたときの受講者の皆さんの目の輝きを思い出したのです。

今回、各事業部門の執務フロアをご案内いただきましたが、皆さんイキイキと働いていらっしゃる姿がとても印象的でした。創業者である河野貞雄会長の想いを引き継ぎ、さらなる成長に向けて、当社の「人づくり」と「街づくり」はこれからも続きます。





 熊本銀行

「有明海苔を世界へ。」
ギネス認定を受け
伝統の味の価値を高めて
皆の幸せを包み込む。

株式会社 風雅^{ふうが}

代表取締役社長
塚田 利郎^{つかだ としろう}氏

取引店／熊本銀行 花畑支店
十八親和銀行 熊本支店

■会社概要

設立:1990年／所在地:熊本市東区／資本金:
4,600万円／従業員:48名／事業内容:海苔菓子
及び、加工海苔の製造販売業／関連会社:株式
会社通宝／事業拠点:本社、物流センター、福岡
営業所、関西営業所、関東営業所／直営店:江津
本店、城山店、益城店、武蔵ヶ丘店、長嶺店、
太宰府店、長丘店、小戸店、久留米店、宮崎店

会社ホームページは
こちらからどうぞ！





本社前(左から塚田社長、坂本頭取)

有明海苔の伝統と真摯に向き合い 新たな価値の提供に注力

風雅は1990年、親会社である「通宝海苔株式会社(現・株式会社通宝)」から分社する形で設立しました。株式会社通宝は乾海苔を扱う食品卸業者として1961年に創業して以来、品質にこだわり、化学調味料無添加を徹底するなど実直に海苔と向き合い続けています。この海苔を、より付加価値の高い商品として販売したいと考え、当時は通宝の社員として勤務していた、風雅の初代代表・塚田強男(すなお)が中心となって開発したのが、当社の看板商品である「風雅巻き」です。

風雅巻きに使われている高級海苔は、有明海で真冬に若摘みされる海苔で、色艶や風味、旨味、口溶けの良さを誇る最高峰のものに限定しています。販売戦略の一環として分社化を決定し、看板商品の風雅巻きを由来とする「風雅」を社名に採用しました。現在では、直営店10店舗に加え、三越・伊勢丹や高島屋、阪急百貨店、岩田屋等といった全国の大手百貨店と通信販売に販路を拡大しています。

品質の高さは一步も譲らず 楽しく自由な商品の開発に重点を

分社化するに至った最大の理由は、風雅巻きの品質を決定づける一番の原材料である海苔の質を確保するために、小売価格が高くても、商品の価値で評価していただく市場である百貨店市場を攻略するためのブランドを築き上げる必要があるということからでした。ただ、今日に至るまでにすべてが順調だった訳ではなく、百貨店市場に対する営業のノウハウがなかった会社設立当初には苦労もありましたが、大手菓子メーカーで経験を積まれた方々を迎え、営業力を強化することができました。

同時に、遊び心あふれる商品の開発にも取り組み、販路の拡大を狙いました。ご飯のお供としてポピュラーな佃煮や海苔のふりかけはもちろん、自由なシーンで自分らしい食べ方を楽しめるように、さまざまなフレーバーの海苔菓子や豆菓子をバラエティ豊かに提供しています。

今年は、ベルギー王室御用達のチョココレートブランド・GODIVA^{ゴデイバ}とのコラボレーションによる「海苔ショコラクランチ」や、若い世代を中心に支持を集めるアニメ【推しの子】の「日本全国プロジェクト【47都道府県の子】」とコラボ



5



3 1



6



4 2





塚田社長

レーションし、限定パッケージの風雅巻きを販売するなど、新たなターゲット層に届く商品を生み出すことができました。「日本ギフト大賞2025」の受賞も果たし、幅広い世代が楽しめる商品開発へ意欲を新たにしています。

**環境の影響を受け3シーズンの生産減
追い風に助けられ
恩をつないで前を向く**

業績は上昇傾向を継続しており順調です。とはいえ、2016年には熊本地震によって営業の一時停止を余儀なくされ、2022年秋以降は、記録的と言われるほどの有明海の高潮の不作が続きました。そもそも有明海の高潮は海苔作りに非常に適しており、江戸時代から海苔の

養殖を受け継いできた伝統ある地域です。それでも、枚数・販売額における日本一の座を、19年ぶりに他地域の漁場に譲るほどの大打撃を受け、自然相手の商売の厳しさを痛感しました。

自然災害や環境の変動によるピンチは予測がつきません。よって備えも難しいものですが、熊本地震の際には、全国の皆さまが「買い支え」によって熊本県を応援してくださいました。それが大きな追い風となり、当社も支えられて今があります。

海況の変化による不作に対しては、前シーズンで多めに買い付けていた在庫に助けられました。意図したことではありませんでしたが、計算では追いつかない、その場の流れに乗る「勘どころ」のような感覚も、海の恵みをいただく仕事に大切な部分かもしれません。

ただ、広い目で見ると国産海苔の生産量が今シーズンは59億枚となり、1990年代のピーク時に比べてほぼ半減している状況です。環境の変化が大きな要因であるのは間違いありませんが、突き詰めて考えるに、日本の伝統的な海苔づくりの工程にも課題があるのではないかの思いもあります。

例えば、海苔の生産量で世界トップに躍り出た韓国では、生産工程を分業化しています。



11 9



7



8



10



1.対談風景／2.3.本店見学風景／4.ギネス世界記録®認定の盾とともに記念撮影／5.風雅巻きを製造している株式会社通宝にて中川専務(写真右)と談笑／6.一本一本人の手で丁寧に手巻きして出来上がる風雅巻き／7.8.9.10.風雅巻き製造工程を見学／11.企業メッセージ



前列左3人目から塚田社長、坂本頭取、末永支店長（熊本銀行）

海苔の種付け、収穫、加工それぞれを専門業社が担当することで、生産者にかかる作業や費用の負担を、日本に比べてかなり低く抑えられるのです。日本では種付けから加工、出荷まで一貫して生産者が担うため負担が大きく、新規参入のハードルの高さにつながっています。

新規参入については漁業権に絡むものであり、簡単に意見できることはありませんが、熊本海苔を愛する一企業として、皆さまに支えられた経験を忘れず、「できることを一つずつ」の精神で、課題に向き合い続けます。

地域の未来と有明海苔の発展を胸に 風雅らしく貢献する

有明海苔の生産地と聞いて即座に浮かぶのは、生産量トップを維持する佐賀県ではないでしょうか。海苔の生産者の高齢化が進む中、いかにして熊本県産海苔を守り育てるかが、非常に重要な問題となりつつあります。生産者や漁場を守るためにも「地域にとつてなくてはならない存在」であらねばとの思いで、地域貢献・社会貢献に努めています。

成形された海苔は、小さな衝撃で破損するほど繊細です。海苔を万全の状態で消費者へ

届け、パリッとした食感を楽しんでいただくために、風雅巻きは一本一本を手巻きで仕上げています。その製造工場を建設する際、都心部から離れた天草市と山鹿市を選びました。地方では仕事探しも容易ではなく、子育て世代や、地元で働きたい方々のニーズに応え、雇用機会の創出の一端を担えればとの思いからです。

その他、熊本県産の海苔をアピールするために、「塩屋一番」というブランド海苔を8年連続で落札しました。良いものは相応しい価格で購入入されるべきであり、生産者の意欲向上や、海苔養殖業に携わる若手の育成、地域の消費活動の活発化に寄与したい考えです。

また、能登半島地震の際は、以前から交流のある歌手・中澤卓也氏なかざわたくやから申し出を受けてチャリティーコンサートを主催し、義援金を送らせていただきました。熊本地震で助けていただいた恩をつなげ、風雅らしい貢献をこれからも続けてまいります。

「皆の幸せ」を使命に掲げ 有明海苔ブランドを 世界一へ押し上げる

社訓に掲げる「皆が幸せ 皆で幸せ」は、例えて

いうならば近江商人の「三方よし」の精神に通じるもので、作り手・売り手・買い手が共に笑顔になれる商品づくりを目指しています。当社の商品は嗜好品が中心ですから、社員にも遊び心を常に持つよう伝え、柔軟な発想を大切にし、さまざまな意見を出し合える社風を築いています。

昨年度は、ギネス世界記録®への申請を行いました。2024年開催の「第5回熊本県海苔入札会」において、「塩屋一番〇特」の落札価格が1箱432万円（1束100枚12万円）という史上最高価格を記録し、ギネスに申請したところ、今年6月に見事認定となりました。

中長期的なビジョンとして取り組んでいるのは、海外への販路拡大です。TSMC（台湾積体回路製造）の熊本進出で深まる台湾とのつながりを活かして、贈答品やデイリー商品等の輸出を始めています。ギネス認定を受けた世界一の海苔の桐箱入り10枚2万円という商品に大量注文が入るなど、滑り出しは好調です。

有明海苔の品質の高さが「世界一」であることを広く周知し、当社のみならず有明海苔、ひいては日本海苔の地位向上のステップの足掛かりとなるべく力を尽くしてまいります。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 坂本 俊宏



有明海に伝わる伝統的な海苔養殖の文化を受け継ぎ、地元愛深く地域貢献を実践なさっておられる企業風土に感服しております。風雅巻きという唯一無二の商品を掲げて日本トップレベルの品質の普及に尽力されており、有明地域の環境の良さ、恵みの豊かさ、素晴らしさを知る人は今後も増えていくことでしょう。

熊本経済が変革期を迎えた今、時流の波に乗り、国内外へと活躍の場を広げ益々発展されることを期待しております。



トップに聞く!

十八親和銀行

創業から今年で100年。

おもてなしの心を守りつづ

地域の繋がりを重んじて未来を拓く。

株式会社
うれしのかんこう
嬉野観光ホテル大正屋

代表取締役社長

やまぐち たもつ

山口保氏

取引店／十八親和銀行 嬉野支店
福岡銀行 佐賀支店

■会社概要

創業:1925年／設立:1954年／所在地:佐賀県
嬉野市／資本金:1,000万円／従業員:175名
(2025年8月現在)／事業内容:旅館や温泉などの
宿泊業／グループ施設:大正屋、椎葉山荘、
湯どうふ本舗

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本館前(左から山口社長、山川頭取)

大火災から復興中の嬉野温泉で 酒店から転業し旅館を興す

嬉野温泉の歴史は古く、その昔、神功皇后（じんこうこうしゅう）（201～269年）が朝鮮半島に出兵した帰途、嬉野に湧いていた温泉の湯で兵士の傷が癒えたため、「あな、うれしの」と喜ばれたのが地名の由来になったと伝えられています。江戸時代には長崎街道の宿場町として栄え、「出島の三学者」と呼ばれたシーボルトも長崎から訪れたほどです。温泉は湯ざわりがなめらかで神経痛や皮膚病などに効くとされ、「日本三大美肌の湯」として知られるようになりました。

当旅館は、大正時代の大火災で嬉野温泉の中心部が焼失した際、復興期に初代の山口締一（しめいち）が酒販売店から旅館業に転業する形で創業しました。旅館に内湯がなく温泉水を引いていた時代に自家用泉源の掘削に成功し、湯治客や商人の常宿として人気を得ました。締一の長男で二代目となった山口政夫は、当時としては豪華なバストイレ付きの客室、最先端のダンスホールを新設して評判になったといえます。さらに、37歳で政夫が早逝した後、夫の遺志を引き継いだ三代目の山口英子（えいこ）

（現社長の22歳上の姉）は、一階はテラス、二階は庭園の眺望が楽しめるモダンな造りの大浴場の新設を始め、客室や広間の増築にも積極的に取り組み、旅館の拡大に力を注いでいきました。

旅館経営を学ぶ途上で 影響を受けた二つの出会い

私が当旅館に入社したのは大学卒業後の1964年です。入社から3年後には県外で知見を広げるべく、島根県の皆生温泉（かひけ）にあるホテルで2年間お世話になりました。当時のオーナーにはいろいろと教えていただきましたが、なかでもお客さまのおもてなしを最優先にしながらも旅館運営の合理性・効率性を忘れない経営眼に触れることができたことは貴重な経験でした。いくら理想を追い求めても、経営が疎かになれば、会社は存続し得ないのです。この経験は今思えば、当旅館開業100年を迎えることができた私の経営者としての礎になっているように感じます。

また、日本建築界の重鎮であり、奈良国立博物館や皇居新宮殿などを手がけられた建築家である故・吉村順三先生（よしむらじゆんぞう）とのご縁も、



5



6



3 1



4 2





山口社長

私にとって、そして当旅館にとって、かけがえないものとなりました。

島根から大正屋へ戻った後、英子社長と視察で訪れた京都の老舗旅館「俵屋新館」(京都府)と「文殊荘」(宮津市)で、伝統美を重んじながらも心地よさを漂わせる建物の佇まいに心を動かされました。いずれも吉村先生の設計によるものと知り、私たちが思い描くおもてなしを形にしていきたい一心で、直ちに先生のもとへ向かいました。

お目にかかって新館の設計をお願いしたものの、すぐにはよい返事をいただけませんでした。それでも、あきらめきれずに何度も通った末にお引き受けいただき、大正屋の一大プロジェクトが始まりました。1973年、地下一階・地上七階の本館完成を皮切りに別館や

離れ棟に至るまで、吉村先生の手によって私たちの理想とする形・姿が現実のものとなつてきました。

また、旅館におけるおもてなしの原点ともいえる「食」についても、厳選した食材はもとより、料理に趣を添える有田焼を始めとする食器、季節ごとにテーマを変えて供される食事とともにお出しするお品書き、自家製の二年熟成梅酒など、静寂でありながら心落ち着く旅館の建築美に劣ることがないよう日々おもてなしを続けています。

先代の猛反対に遭いながらも 推し進めた改革で経営効率向上へ

先代の英子社長は、時代の先を読む優れた才能の持ち主であり、仕事にすべてを捧げた人でした。2019年に満100歳となった先代は亡くなる前日まで経営会議に出席していました。それくらい自分自身を厳しく律しておりましたが、私を後継者として立派に育てたいという思いからか、私にも常に厳しく接していました。

その例が、1994年、椎葉川の清流に寄り添ったたたずむ宿「椎葉山荘」の新設に着工



11 9



7



8



10

- 1.対談風景／2.露天風呂「しいばの湯」(椎葉山荘)
- 3.和の趣溢れる離れ特室「水晶の間」(大正屋)
- 4.「水晶の間」の眼前には池や木立を有する静寂な庭園が広がる／5.大正屋謹製とろける湯どうふ
- 6.豊かな自然に育まれた佐賀・嬉野の旬を味わう会席料理／7.8.滝をしつらえた庭園大浴場「滝の湯」(大正屋)
- 9.馬山大学(韓国)からのインターン学生と談笑／10.清流椎葉川にかかる「はたる橋」にて。奥には椎葉山荘が佇む／11.企業メッセージ



前列左1人目から山口千鶴若女将、山口雅子専務、山口社長、山川頭取、堀尾支店長（十八親和銀行）、香月一昭常務、後列左1人目から山口浩取締役、山口副社長

した際のことです。これを機に経営の効率化を推し進めようと考えた私は、いわゆる部屋食を行わない方針を打ち出しました。しかし、日本旅館の伝統的なおもてなしを重視する先代は真っ向から猛反対でした。それでも私は熱意をもって説得を続け、最終的には「椎葉山荘」における新たな旅館経営の試みを認めてくれました。

そのほか、予約受付から始まる一連の事務作業をデータで一元管理するシステムを導入しました。当時の日本の旅館としてはいち早い取り組みだったと思います。これによって、全館の情報が共有化され、過去のデータから予約を予測するという適切な営業管理体制を通じて、経営効率の改善とともにお客さまへのサービス向上を図ることができました。

コロナ禍をきっかけに始めた

従業員満足度向上のための取り組み

2020年に入ってコロナ禍となり、開業以来初の長期休業を余儀なくされました。従業員の雇用を守るため、コロナ禍の期間は新規採用を控えていたのですが、結果的に運営面で人員不足の事態を招いてしまいました。

この経験を教訓として、2022年に従業員の満足度向上を掲げた「全館10連休制度」を導入しました。従業員の皆さんには、日ごろ

連休を取るのが難しい旅館業において家族とゆつくりできる時間や趣味を満喫する時間に充ててほしいと思っています。さらに、社員寮を設け、現場を支える人たちが良好なワークライフバランスを保てるような環境を整備しています。無料の社員食堂もリニューアルし、健康面でのサポートもおこなえるよう心がけています。

人材採用面では、国際的な集客力向上を目指して韓国やネパールから毎年採用をおこなっています。また、県内の西九州大学や佐賀女子大学と提携して、地元人材の雇用促進にも取り組んでいます。

環境整備、特産品、地産地消など 地域を存続させる仕組みをつくる

地域に対する取り組みという点では、旅館からの景観を考えて椎葉山荘の周囲に紅葉樹の植栽をおこなってきましたが、500本以上を植えた現在、地域の魅力向上ばかりでなく、近年多発している豪雨の影響による地滑り

対策としても役立っています。

また、当旅館が商品化した「嬉野温泉湯どろふ」は、地域全体の特産品として育てるために製法、商標を公開しており、現在は嬉野名物として知られるようになっていきます。旅館で使う食材は、嬉野の棚田米、有明海の魚介類など、地場業者の事業継続にひと役買の意味で、可能な限り地産地消にこだわっています。

昨年4月に大正屋の「四季の湯」をリニューアルしました。また、事業のスリム化と資本集中を図るため、本年3月に大正屋グループの宿「湯宿清流」を売却、9月には自社サーバーからクラウド型へ管理システムを移行予定

です。先代英子社長は「当たり前のことを当たり前にする」をモットーとしていました。社会のニーズ・情勢は多様さを増し、当旅館を取り巻く環境も刻々と変化していくなか、当たり前とは何なのか簡単なようでとても難しい言葉です。今あえて私が一言でいうならば、当たり前とは「お客さまに真に寄り添うこと」だと思います。これからお客さまと誠実に向き合い、そして寄り添いながら、皆さまから愛される旅館を目指してまいります。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 山川 信彦

この度は創業100周年をお迎えされましたこと、心よりお慶び申し上げます。100年の歴史を誇る老舗旅館でありながら、守るべきものと変わっていくべきものを見きわめたうえで、長きにわたり発展を遂げられた当社ならびに皆さまのご尽力に深く敬意を表します。

2022年9月の西九州新幹線開業によって新駅ができ、賑わいを取り戻したといわれる嬉野温泉。地域経済の浮揚とともに、大正屋グループのさらなる飛躍を心より期待しております。

